

を、月末までには最後の首響



中国情勢について中嶋嶺雄・東京外語大教授が講演した佐賀政経懇話会＝ホテルニューオータニ佐賀

# 党独裁崩れる恐れも

中嶋・東京外大教授 中国問題で講演

懇話会 政例 賀月 佐 8

佐賀政経懇話会（佐賀新聞社主催）の八月例会は二日、佐賀市のホテルニューオータニ佐賀で開き、中国問題の第一人者で東京外国語大学教授の中嶋嶺雄氏が「中国はどうなるのか」のテーマで講演。中嶋氏は最近の中国情勢の本質、六月四日の天安門事件の分析を踏まえ、「経済、政治体制からみて将来の中国は厳しく、共産党独裁が崩れる恐れさえある」と見通した。

（3面に講演要旨）

中嶋氏は今回の天安門事件の背景には社会の現状、政治体制への民衆の強い不満があったと指摘。具体的には①経済成長を上回る人口増や個人所得の低迷の猛烈なインフレによる経済の混乱②わいろと一族支配横行など共産党幹部の腐敗などを挙げた。

学生らは中ソ首脳会談で、引退したはずの鄧小平がなぜゴルバチョフ書記長と会談するのか、と長老支配を糾弾したが、「そここそ今の中国の

矛盾がある」と中嶋氏。こうした中国共産党の古い体質、貿易の落ち込みと財政の赤字、インフレの高進など経済の現状から、中嶋氏は、今後の中国は不安定。このままではあと五年ともたない。鄧小平の死後、大きく転換する可能性もある」とし、「日本は中国に対してきちんと発言すべき。今回のあいまいな態度を多くの中国人が指摘していることを知らねばならない」と指摘した。